

混声合唱団コール・ミレニウム第13回定期演奏会 × アウローラ管弦楽団

モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart
Requiem in D minor KV 626

レクイエム

ニ短調



指揮 山下 一史

モーツァルトは常に新しい。斬新な音楽とも癒やし、そして宇宙のリズムをも具現する。

プログラム D. D. ショスタコーヴィチ ピアノ協奏曲第2番へ長調
W. A. モーツァルト レクイエム KV 626



ソプラノ
松本 美和子



メゾソプラノ
菅 有実子



混声合唱団
コール・ミレニウム



テノール
高橋 淳



バリトン
大沼 徹



ピアノ
赤松 林太郎

2015年

7月25日(土) 14時開演 / 13時ロビー開場

管弦楽 アウローラ管弦楽団
合唱 混声合唱団コール・ミレニウム
オルガン 野田 美香

合唱指導 下村 郁哉 内藤 裕史 和田 茂士 泉 智之
ピアノ 加藤 朋子



モーツァルトの葬儀が行われたウィーンの聖シュテファン大聖堂

東京芸術劇場コンサートホール

東京芸術劇場アクセス
〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
電話 03-5391-2111(代) FAX 03-5391-2215
<受付時間> 9:00~22:00(休館日を除く)
JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線
池袋駅西口より徒歩2分。
※駅地下通路2b出口と直結しています。



(全席指定)

S席 ¥3,000円 A席 ¥2,500円 B席 ¥2,000円

小学生未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

チケットお取り扱い

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード260-331)
混声合唱団コール・ミレニウム tel/fax 03-5932-4012

chor-millennium@jcom.home.ne.jp

<http://members3.jcom.home.ne.jp/chor-millennium/>

主催:混声合唱団コール・ミレニウム

Profile

山下 一史 YAMASHITA Kazufumi, Conductor

1984年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。1985年12月からカラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントを務め、ベルリン・フィル演奏会で急病のカラヤンの代役としてジーンズ姿のまま「第九」を指揮し、話題となる。以降、ヘルシンボリ響首席客演指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢、プリンシパル・ゲスト・コンダクター、九州交響楽団常任指揮者を歴任。また、2002年より大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者を務め、2008年4月より同団名誉指揮者に就任。2006年より仙台フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として迎えられ、R. シュトラウス「英雄の生涯」、リムスキー=コルサコフ「シェラザード」などのCD制作を行うなど積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団正指揮者を務める。2008年に行われた愛知県文化振興財団主催によるヴェルディ「ファルスタッフ」の公演においても大きな成果を上げ、「第17回三菱UFJ信託音楽賞」を受賞。2009年にはサンクトペテルブルク交響楽団定期に出演し、大成功を収めた。また、2011年にはシューマン「ゲノフェーファ」日本舞台初演や、2013年には水野修孝 歌劇「天守物語」を行うなど、現在、オペラ、オーケストラの両面において着実な成果を積み上げている指揮者として、ますます注目を浴びている。

松本 美和子 MATSUMOTO Miwako, Soprano

武蔵野音楽大学卒業。同専攻科修了。1964年日伊声楽コンクール特別賞。1965年日本音楽コンクール第一位。その後イタリアに渡りローマ サンタ・チェチーリア音楽院を首席名誉受賞で卒業。数々の国際コンクールに入賞。1972年ローマ国立歌劇場で「カルメン」のミカエラでデビュー以降、ウイーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ロンドン・コヴェントガーデン王立劇場など世界各国のオペラ劇場に出演。1996年にはトステイ生誕150周年を記念し、トステイ歌曲100曲を歌いあげて全曲CD録音し、大きな話題を呼んだ。1998-99年オペラ「蝶々夫人」のタイトルロールで新国立劇場の幕開けを飾り、絶賛を博した。またレスピーギ生誕120周年に当たり、日本では初めて全曲のCDをビクターよりリリース。その他、ソニー・フォンテック・ビクターより数々のCDをリリースしている。2011年には45周年記念で、紀尾井ホールにてブルーノの「声」の公演を実施。この後、ライフワークとして「声」を毎年歌い続けている。これまでに、新日録音賞特別賞、モービル音楽賞などを受賞。2006年にはこれまでの演奏活動が高く評価され、紫綬褒章を、2012年には、旭日小綬章を授与された。現在も2014年オペラ「春琴抄」など自らの演奏活動を続ける傍ら、次世代の育成に全力で取り組んでおり、佐藤美枝子ほか次々の実力者を育てている。武蔵野音楽大学特任教授。

菅 有実子 KAN Yumiko, Mezzo Soprano

東京藝術大学卒業。同大学院修了。第62回日本音楽コンクール第2位入賞。第26回日伊声楽コンクール入選。東京二期会や新国立劇場公演を主に「フィガロの結婚」ケルビーノ、「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル、「ばらの騎士」オクタヴィアン役を好演。同役でNHKニューイヤーオペラコンサートに出演。その他「カルメン」タイトルロール、「真夏の夜の夢」オベロン、「アルジェのイタリア女」イザベラ、「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ、「フィレンツェの悲劇」ピアンカ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントウツァ、ローラ、またR. シュトラウス、ワーグナー等のオペラ作品にも数多く出演。またN響定期「エレクトラ」、新日本フィル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」、東京フィル・オペラコンチェルトシリーズ等の演奏会にも度々出演している。宗教曲ではモーツァルト、ヴェルディ「レクイエム」、バッハ「クリスマスオラトリオ」「受難曲」「ミサ曲」、またベートーヴェン「第九」、マーラー「千人の交響曲」「復活」「大地の歌」などのソリストとして、オーケストラとの共演は枚挙に暇がない。東京音楽大学教授、フェリス女学院大学講師、二期会会員。

高橋 淳 TAKAHASHI Jun, Tenor

東京音楽大学卒業。同大学院修了。1995年ザルツブルク・モーツァルトウム音楽院夏期アカデミー修了。二期会オペラスタジオ第43期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。2001年オペラ・デビュー以降、新国立劇場、二期会を中心にあらゆる舞台上で活躍を続けている。特に近現代作品での活躍はめざましく、多くの日本初演、世界初演に参加し舞台の成功に大きく貢献している。近年では、2011年二期会『サロメ』ヘロデ王、東京文化会館『古事記』でのスケールの大きな歌唱が絶賛され、新聞等でも取り上げられた。また海外では、2006年G. アルブレヒトの指名により氏の指揮でザルツブルク音楽祭に出演、ヘンツェ作曲『午後の曳航』登役で満場の喝采を浴びたほか、2011年ブッケーニフェスティバル(イタリア)『蝶々夫人』に出演し高い評価を得た。コンサートでは、特にオルフ「カルミナ・ブラーナ」の個性的な歌唱が高い評価を得、我が国における第一人者としての地位を確立。2010年には初のリサイタルでドイツ・リートを披露、のびやかな美声で好評を博した。二期会会員、東京音楽大学非常勤講師。

大沼 徹 ONUMA Toru, Baritone

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業。同大学院修了。大学院在学中、東海大学海外派遣留学生としてベルリン・フンボルト大学へ留学。ハルトムート・クレッチュマン、クラウス・ヘーガーに師事。二期会オペラ研修所第51期マスタークラス修了。修了時に最優秀賞及び川崎静子賞受賞。第71回読売新人演奏会出演。第17回日本声楽コンクール第3位。第75回日本音楽コンクール(歌劇部門)入選。第7回藤沢オペラコンクール奨励賞。2009年第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門第1位受賞。これまでオペラでは『ラ・ボエーム』、『カルメン』、『魔笛』、『セビリアの理髪師』、『ヘンゼルとグレーテル』等に出演。二期会ニューウェーブオペラ『ウリッセルの帰還』ウリッセル役に主演しデビュー。同、『オテロ』イアーゴ役、『魔笛』でもババゲーノに抜擢される。NHKFM名曲リサイタルに出演。第21回五島記念文化賞オペラ新人受賞。昨年秋よりドイツ・マイセンへ留学。2013年新国立劇場『魔笛』弁者に続き、東京二期会『ホフマン物語』では、絶賛を浴びた。同11月、日生劇場『フィデリオ』ドン・フェルナンドでも好評を博す。2016年10月東京二期会公演、R. シュトラウス作曲「ダナエの愛」ユピテル役に出演予定。シューベルト「冬の旅」等のドイツリートなどでも高い評価を得ており、目覚ましい活躍で注目を集めるバリトンの逸材。二期会、日本声楽発声学会々員、東海大学教養学部芸術学科非常勤講師。

赤松 林太郎 AKAMATSU Rintaro, Piano

1978年生まれ。2歳よりピアノとヴァイオリンを、6歳よりチェロを始める。5歳の時に小曾根実氏や故・芥川也寸志氏の進行でテレビ出演。1990年に第44回全日本学生音楽コンクールで優勝。神戸大学を卒業後、パリ・エコール・ノルマル音楽院にてピアノ・室内楽共に高等演奏家課程ディプロムを審査員満場一致で取得(室内楽は全審査員満点による)。2000年に第3回クララ・シューマン国際ピアノコンクールで日本人初の上位入賞を果たし、世界的音楽学者Dr. ヨアヒム・カイザー、マルタ・アルゲリッチやネルソン・フレイレに賞賛される。その後もヨーロッパの国際コンクールで優勝や上位入賞を続ける。国内各地の主要ホールはもとより、アメリカ、ロシア、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オーストリア、ハンガリー、台湾、コロンビアなどを公演で廻る。ソロや室内楽で多くの公開録音で音源に残している。キングインターナショナルより『ふたりのドミニコ』をリリース。東京交響楽団やロイヤルチェンバーオーケストラなどと共演。年間60回以上の国内外での演奏活動を続ける一方、200名近い生徒を抱える(2012年PTNA特級グランプリ等)。2014年にリスト音楽院にてマスタークラスの講師を務める。エッセイストとして新聞や雑誌にも連載を持っている。全日本ピアノ指導者協会正会員、日本リスト協会専務理事。

混声合唱団 コール・ミレニアム

2001年ポーランド国立放送交響楽団とモーツァルトのレクイエムを共演したメンバーを中心に2002年に結成。記念すべき千年紀を超える時代に、新星のごとく誕生する。オーケストラを伴う宗教合唱音楽を主に演奏活動を行なっている。第1回定期演奏会より、音楽監督兼首席指揮者として故小松一彦氏に、2010年からは黒岩英臣氏、荒谷俊二氏、内藤彰氏らの指揮で演奏会を行う。合唱指揮には内藤裕史、下村都哉氏らを迎え、ヴォイストレーナーの力も得て実力を伸ばしてきた。これまでの定演は、フォーレ・レクイエム、ヘンデル・メサイア、ヴェルディ・レクイエム、ブラームス・ドイツレクイエムの他、中央大学管弦楽団、EMQとの第九演奏会も行う。海外では2006年4月ブラハのスメタナホールでのモーツァルト・レクイエム、2007年コンサートヘボウにて有志によりヴェルディ・レクイエムを、2009年5月にウィーン・カールス教会でモーツァルト・ミサ曲ハ短調を演奏。2011年1月にはパリ・マドレーヌ寺院でのフォーレ・レクイエム演奏会に有志で出演するなど、短い間に画期的で且つ魅力有るプログラムを展開している。

アウローラ管弦楽団

ロシア音楽を中心に演奏するオーケストラとして2009年に結成。「アウローラ」とはロシア語で「暁の女神」を意味し、転じて「夜明け」を表す。年2回の定期演奏会を軸に活動を行う一方で、年1回程度の企画演奏会(室内オーケストラ演奏会や特別演奏会)も不定期に開催する。これまでの7年間に12回の定期演奏会、7回の室内オーケストラ演奏会、3回の特別演奏会を開催。2012年5月には福島遠征を行い、現地のジュニア・オーケストラや市民オーケストラと共演。これまでに演奏してきた曲数は60曲を越す。

現在、団員数は約70名、男女比はほぼ1:1、平均年齢は20代後半で、まだまだ若い楽団ではありますが、一步一步着実な成長を目指して、楽団員一同練習に励んでいます。